音楽科　学習指導案

田川　聖旨（授業者）

1. 基本情報

・日時：2016（平成 28）年 7 月 7 日（木）　第 4 校時（11：40 ～ 12：30）
・場所：東京学芸大学附属小金井中学校　3 階　音楽室
・授業クラス：第 2 学年 A 組　40 名（男子 20 名，女子 20 名）

2. 題材名

「アルトリコーダーで個性あふれるアレンジ演奏をしよう」

3. 題材について

3.1 題材設定の理由

(1) 教科からみた特性

本校の音楽科では，生徒一人ひとりが「どのように表現するか」について自分なりの思いや意図をもち，個性あふれる表現を創造することを目指している。本題材では，教師が用意した曲から自分が演奏する曲を選択し，曲の一部分をアレンジする学習を行う。その中で，どの部分をどのようにアレンジするかについて試行錯誤し，個性を発揮しながら，音楽をつくりあげるようにしたい。

また，それを支える基盤として，各々の自我確立期における自己肯定感を高め，それによって，互いが違う意見も大いに認め合い，個性を発揮し合える学習環境をつくることが重要であると考えている。とくに，本題材では，「仲間とのコミュニケーション能力」を育成しながら，互いの表現のよさや違いを学び合い，みずからの表現を高めていくことを目指している。

(2) 汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

①汎用的スキルの育成

自ら曲を選ぶ自主的な取組から，アレンジする学習によって，汎用的なスキルである感性・表現・創造の力の育成が期待される。また，学習過程の中で，個々の学習でありながら臨席の友達と教え合ったり，グループ活動で互いの意見や表現から学び合ったりすることにより協働する力が育成されると考えている。

②態度・価値の育成

教師と生徒，個々の生徒同士，グループ内の生徒同士等，様々な形態でのコミュニケーションが図られ，その中で，他者に対する受容・共感・敬意が育まれ，互いに協力し合う心が育成される。さらに，表現の仕方を追求しようとする好奇心・探究心，表現を高めようとする向上心や，発表に向けて最後までやり抜く困難を乗り越える力が育つと期待される。

3.2 題材の目標

(1) 音楽科としての目標

①題材の目標

ⅰ）－ 1 表現及び比較鑑賞する楽曲（ジャンル）や楽器（アルトリコーダー，他）に興味をもち，主体的な演奏・鑑賞活動をしたり互いのよさを学び取ったりしようとしている。

－ 2 音楽を形づくっている要素がそれぞれの楽曲に与える影響に関心・意欲をもち，積極的に工夫して表現しようとしている。（音楽への関心・意欲・態度）

ⅱ）原曲の楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏楽曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，原曲を独自の発想で自由にアレンジ

している。（音楽表現の創意工夫）

iii）オリジナリティあふれるリズム・メロディ・その他の表現を，クラスメイトの目前で堂々と表現している。（音楽表現の技能）

iv）様々な鑑賞活動を通して，各自がそれぞれの楽曲・場面の特徴・よさを感じ取り，その特徴よさを他者へ的確に伝えている。（鑑賞の能力）

（2）新しい教育モデルとして重点的に育成すべき内容

①汎用的スキル

鑑賞曲や教師の支援から得た知識・技能を活用し，曲の一部分をアレンジすることにより，個々の感性を働かせて自らの表現を創造する。

個別学習における自然発生的な学び合いや，自分とは異なる角度の方法を交流し合うグループでの話合い活動により，表現の仕方を工夫し高める。

②態度・価値

友達の表現のよさや面白さを認め合い，自分の表現の仕方を追求し，より良い表現を目指し演奏発表をする。

3.3 生徒の実態

中高生や若者のバンド活動等においては，作曲用ソフトなどといった便利ツールがあるにもかかわらず，有名人の「コピー演奏」だけで満足してしまう傾向が強く，それを越えて「創作的活動領域」まで突き進む若者は，少ないように感じられる。その傾向は，校内での合唱コンクールや合唱祭等においても同様である。中学生ともなれば，同じ曲を歌う他のクラスの出現にあたり「他のクラスに対して，自分たちはどうやって個性で差を出そうか」という発想が沸いてくるはずである。しかるに，教師が敢えて介入しなければなかなかそういう流れには至らず，単なる「まね」「再現」のレベルで終わってしまうことが多い。

そこで，中学校の表現活動を考える時，「独創性」について，今以上に小学校で培った土台に磨きをかけ，ステップアップさせるべきではないかと考えた。例えば，歌唱活動においても，単に楽譜を忠実に再現する歌唱・合唱に留まることなく，その活動の中から（多少のアレンジを許すことなどにより）「独創性」を育てる取り組みにつなげていくことが望まれる。それこそ思春期に差し掛かった生徒に対して，自分の個性に自信を持たせ，他者の個性に尊厳を持たせるといった人間的成長も育めるのではないかと考えるからである。これは，器楽による表現活動でも同じことが言える。このような「独創的表現を追求する時間」をもっと増やすことにより，小中学校の音楽現場で，最も独創的な領域である「音楽づくり・創作活動」へのスムーズな足がかりをつかむことも可能になると考えている。

3.4 教材観

本時で扱う曲のみを示す。グループ毎の選択曲（□内はグループ名）6 曲中 4 曲

C1 ～ C3	Take Me Home Country Roads	作詞・作曲　B.Danoff/T.Nivert & J.Denver
D1 ～ D2	少年時代	作詞　井上陽水　　作曲　平井夏美
E	卒業写真	作詞・作曲　荒井由実
F1 ～ F2	空も飛べるはず	作詞・作曲　草野正宗

全て教育芸術社刊「世界の歌声」より

これらの曲は，生徒が普段口ずさんでいる現代の曲という訳ではないが，聞いたことがあり今でも親しまれているポピュラーな曲である。教師が与えた 6 曲より本学級ではこの 4 曲が選ばれた。

親しみを感じる曲を提示することにより自分の思いをもってアレンジしていく学習への関心・意欲が高

まる。また，ポピュラー音楽では，とくに，「アレンジする」という行為が曲のよさを大きく左右するということも感受することができるため，他の曲を聴いたり歌ったりする際にも，どのような音楽になっているかについて関心をもってきくきっかけにもなると思われる。

3.5 指導上の工夫

本題材においては，同じ楽曲でアレンジ発表をしようとするクラスメイトで，1 班が 3 ～ 6 名となるようにグループを設定し，授業内でグループ内での「学び合い」活動の時間を可能な限り設定した。

(1) 創作前段階での練習場面を通しての「学び合い」

通常，リコーダーでの楽曲指導を授業内で行う場合，個人練習の時間をある程度確保する中で，まずは生徒一人ひとりが「自分で決めた楽譜の範囲を」「任意のテンポで」楽譜どおり演奏できることを，目指すようにしている。その過程で，やはりどうしても避けられないのが一人ひとりの進度差である。そこで，「早期に目標を達成し，演奏できるようになった生徒が，進度の遅い生徒を手助け」したり，「(例えば出しづらい音や難しいパッセージの部分のこつなどを) 互いにアドバイス」し合ったりするように，日頃から促し続けることにより，授業の中にそのような役割の生徒が出現してくる。生徒同士の関わりを通して，自尊心や他者理解の心が芽生え「学び合い」が活性化してくるのは，教育的にも大きな価値がある。

(2) 創作的段階の練習場面を通しての「学び合い」

楽譜をアレンジし，いよいよ創作活動に入っていく段階で，ある生徒は「リズムアレンジ」，ある生徒は「アーティキュレーションの工夫」，また別の生徒は「メロディーアレンジ」…といったように，様々な角度からアレンジをし始める。練習過程において，教師が様々な角度からのアレンジ方法を，多くの仲間の取組を通して紹介していくことで，違った角度からも楽曲へアプローチできるということに生徒たちが気付き，練習中のさらなる積極的な交流を通して学び合いが促進され，彼らの集団としての学びも高まっていくことが期待される。

(3) 楽曲の比較鑑賞場面での「学び合い」

(2) 同様，鑑賞においても生徒によって気づき方は様々である。ある生徒はテンポの揺れ，ある生徒は強弱の変化のさせ方，また別の生徒はアーティキュレーションの違い…といったように，他の生徒とは違った角度で気付き，意見を述べる生徒が出てくる。これも，それぞれ違った角度から音楽と向き合うことから出てくる，受け取り方の違いと言える。

上記に示した「学び合い」のように，教師が模範例や正解を例示するだけより，違った捉え方をする生徒が中心となってアドバイスを行い，皆に参考演奏を披露したり，意見を述べたりすることの方が，それを聴いて受けとめる生徒全体の，その後の取組に対する意欲を格段に高めるのは明らかである。また，このような形で活躍できた生徒自身にも自信・自尊心・自己肯定感が増大することは間違いない。教師は，できるだけ多くの生徒ができるだけ多くの場面で，このような「エキスパート」として活躍できるよう，授業展開上の配慮をしていきたい。つまり，多くのエキスパートが，リーダー的存在としてその能力を発揮できる場面が多いほど，それ以外の生徒にとっても得るものが多い授業とすることができると考えている。

3.6 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①表現及び比較鑑賞する曲や楽器に興味をもち，主体的な演奏・鑑賞活動をしたり互いのよさを学び取ったりしようとしている。 ②音楽を形づくっている要素がそれぞれの楽曲に与える影響に関心をもち，積極的に工夫して表現しようとしている。 ★活動の様子 ★ワークシート	①楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，どのようなアレンジにするかについて思いや意図をもっている。 ★個別の活動やグループ活動の様子 ★演奏表現 ★ワークシート	①アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付けている。 ②オリジナリティあふれるリズム，旋律，速度等の表現で演奏している。 ③自分の思った通りの表現の仕方で，クラスメイトの堂々と演奏発表している。 ★個別の活動の様子 ★演奏発表 ★ワークシート	①曲のもつ特徴的な音楽を形づくっている要素等を知覚し，それらの働きと曲想との関わりを感受しながら，曲のよさや美しさを味わい，曲に対する意見を他者へ的確に伝えている。 ★活動の様子 ★発言内容 ★ワークシート

3.7 題材の指導計画（全８時間）

	学習内容と学習活動	・指導上の留意点／★評価
第１次 第１時	1. アルトリコーダーの基本確認（運指 , タンギング等） 2. アレンジ入門（リズムアレンジ） ～「喜びの歌」の主題をもとに～ ワルツ風・スウィング風・ボレロ風・音価を変えて（4 分音符・8 分音符・１拍内３連符） 3. リコーダーアレンジ選択候補楽曲の紹介 （1）Ⓐ Edelweiss，Ⓑ 勝利をたたえる歌， Ⓒ Take Me Home Country Roads	・１年ぶりのリコーダー指導となることを留意する。 ・階名読みでの歌唱ソルフェージュ演習を通し，スムーズにリコーダーの運指理解へと移行させる。 ・リズムアレンジの概念を理解できたか確認する。 ★**関**①表現及び比較鑑賞する曲や楽器に興味をもち，主体的な演奏・鑑賞活動をしたり互いのよさを学び取ったりしようとしている。 ★**技**①アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付けている。
第２時	1. リコーダーアレンジ選択候補楽曲の紹介 （2）Ⓓ 少年時代，Ⓔ 卒業写真， Ⓕ 空も飛べるはず 2. 各曲「音名読み（＝固定ド）」での歌唱演習 3.「階名読み（＝移動ド）」について（含演習） 4. アレンジ発表の具体的方法について（発表例の説明） 40 秒～１分 20 秒内で，旋律の一部を繰り返し違うパターンでアレンジし発表することも可。 5. 生徒各人の発表希望楽曲調査 6. プリント「メロディーをアレンジするには」解説（後掲プリント②） ・リズムアレンジ　・メロディーアレンジ（コードの音以外を削る，コードの音を増やす） 7.「運指表の見方」と「サミング」について	・まずは固定ド唱法で読めるようにする。 ・移動ドは，今回その読み方により，運指の楽なハ長調への移調が可能といったことの紹介に留める。 ・学び合いの活性化のため，１グループを３～６名で編成する都合上，選択者が３名未満となった曲を選んだ生徒は，再度曲を選び直してもらう。 ★**関**①表現及び比較鑑賞する曲や楽器に興味をもち，主体的な演奏・鑑賞活動をしたり互いのよさを学び取ったりしようとしている。 ★**技**①アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付けている。
第２次 第３時	1. 音楽の特徴をつかむ モーツァルト曲「きらきら星変奏曲」鑑賞（後掲プリント③） ・「音楽の３要素」について ・音楽の諸要素を意識しながら鑑賞 ・旋律の「順次進行」と「跳躍進行」について 2. プリント「『リコーダーによるアレンジ演奏発表』へ向けて」「自己チェック表」（後掲プリント④）記入について 3. 練習グループ分け	・同一曲で発表する３～６人組で，公平を期するため教師が機械的に１グループを構成する。 ★**関**①表現及び比較鑑賞する曲や楽器に興味をもち，主体的な演奏・鑑賞活動をしたり互いのよさを学び取ったりしようとしている。 ★**鑑**①曲のもつ特徴的な音楽を形づくっている要素等を知覚し，それらの働きと曲想との関わりを感受しながら，曲のよさや美しさを味わい，曲に対する意見を他者へ的確に伝えている。
第４時	1.「きらきら星変奏曲」の特徴 答え合わせ 2. 個人練習を進めるにあたっての注意事項 「バロック式の運指」で「派生音」に注意 3. 個人練習（10 分）→グループ内で部分発表（約７分） 4. プリント「自己評価」記入	★**鑑**①曲のもつ特徴的な音楽を形づくっている要素等を知覚し，それらの働きと曲想との関わりを感受しながら曲のよさや美しさを味わい，曲に対する意見を他者へ的確に伝えている。

第３次 第５時	1. 各グループで各曲の特徴について意見交換 2. そこで気付いたことを活かしつつ個人練習	★**創**①楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，どのようなアレンジにするかについて思いや意図をもっている。
本時 第６時	1.「アレンジ演奏発表　提出用紙」記入について （後掲プリント④） 2. 期末試験答案返却 3. 個人練習 （工夫のヒントも適宜教師が交えつつ指導する） 4. グループ内相互発表，自己評価記入	・気づいたことを仲間に伝えたり，互いの工夫などを参考にし合ったりして高めるように助言する。 ★**創**①楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，どのようなアレンジにするかについて思いや意図をもっている。
第４次 第７時	1. リコーダーアレンジ発表に際して 発表時・プリント記入上の諸注意，他 2. リコーダーアレンジ発表（1）	★**技**②オリジナリティのあるリズム，旋律，速度等の表現で演奏している。 ★**技**③自分の思った通りの表現の仕方で，クラスメイトの堂々と演奏発表している。
第８時	1. リコーダーアレンジ発表（2） 2. まとめ	

4. 本時

4.1 本時の目標

・選んだ曲の特徴を捉えながら，アレンジの仕方を工夫する。

・同じ曲を選んだ仲間と話し合い，互いのアレンジの仕方を交流し，そのよさや効果を感じ取る。

4.2 評価規準

・楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，どのようなアレンジにするかについて思いや意図をもっている。（音楽表現の創意工夫）

4.3 前時までの学習者

1 年ぶりに扱うアルトリコーダーであるため，運指や息の使い方などを復習しながらアレンジのよさや面白さにふれてきている。「喜びの歌」を使ってアレンジの仕方を学び，リズムや旋律，雰囲気を変えるなど，様々な方法を試している。

また，「きらきら星変奏曲」を鑑賞し，変奏の特徴を捉えるとともに，アレンジに活用できる内容をつかむ学習をしている。

普段の学習からともに学び合うことを大切にし，隣同士で教え合ったり，友達の演奏を聴き合ったりして互いの表現のよさを認め合うようにしている。

4.4 準備物

・アルトリコーダー

・教育芸術社刊「世界の歌声」（歌集）・正進社刊「ミュージックノート」

・プリント 5 種

〈1〉「編曲とは」（既掲）

〈2〉「メロディーをアレンジするには　入門編」

〈3〉「きらきら星変奏曲」～音楽の特徴をつかもう

〈4〉「リコーダーによるアレンジ演奏発表に向けて」

〈5〉「リコーダーによるアレンジ演奏発表　提出用紙」

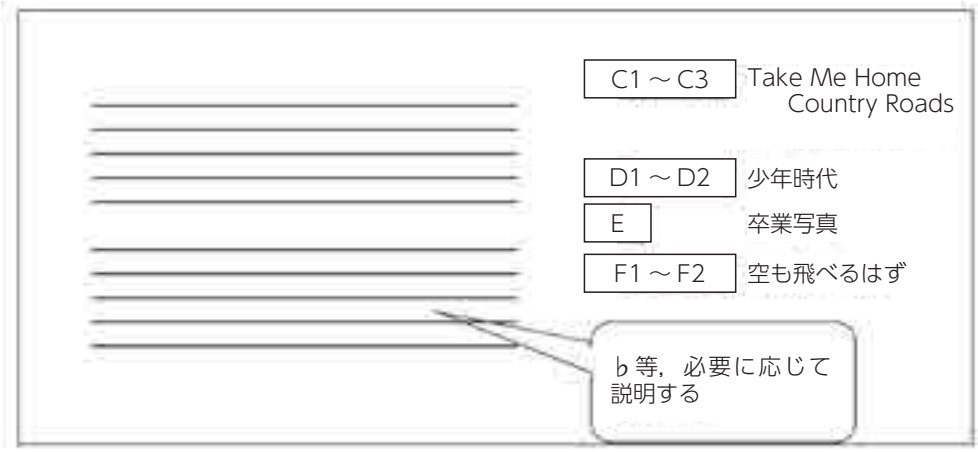
ここでは，本時で使うワークシート〈4〉を示す。

4.5 本時の学習指導過程

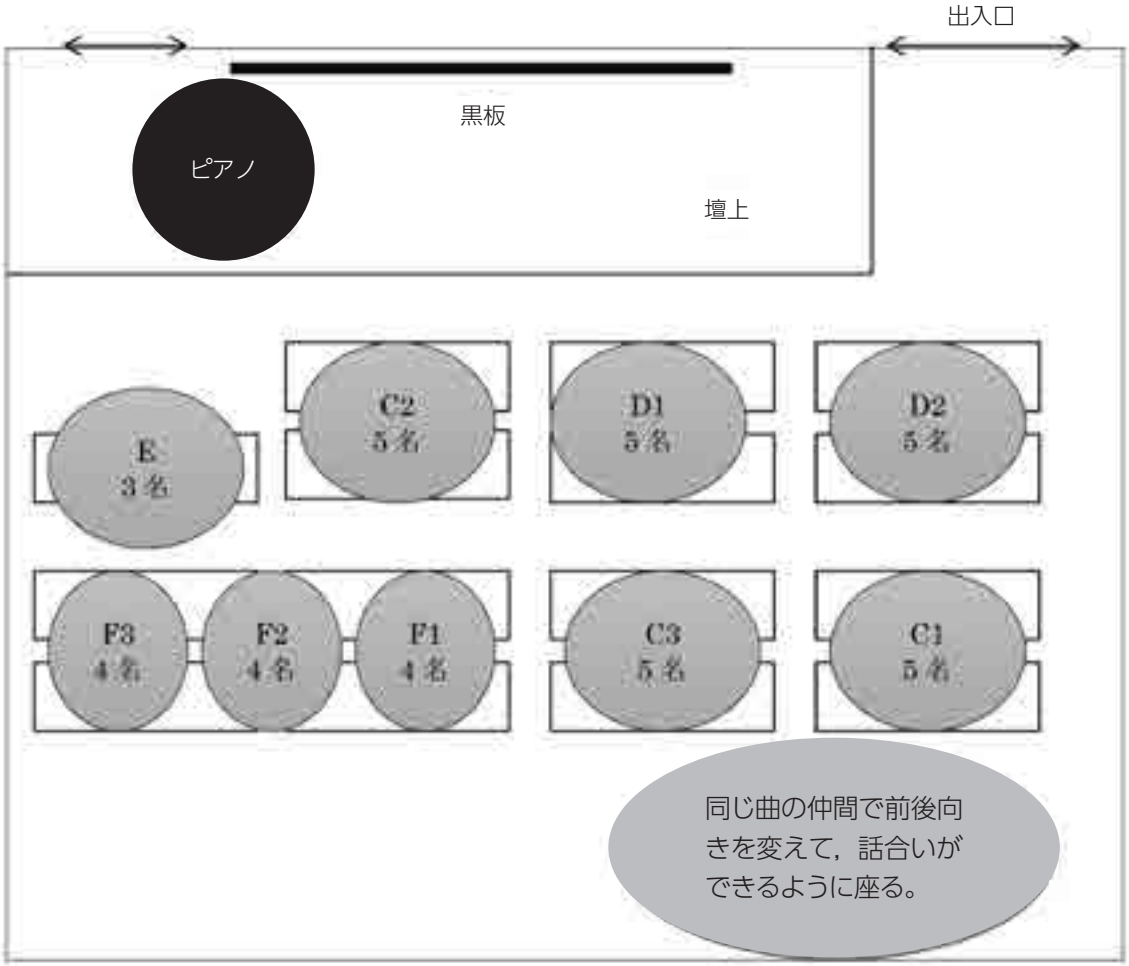
時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点／★評価
導入 ３分	**１．前時の内容と本時の予定を確認する。** **前時の内容を思い出す** ・「『きらきら星変奏曲』の特徴」答え合わせ ・グループ内で一人ずつ発表部分の一部を発表 ↓　上記の目的は？ ・グループ活動を通して互いを高め合うため。 **～今日は，各グループでそれぞれの曲の特徴についてディスカッションし，一部の班に発表してもらう。～**	・グループでの話合い活動の意義を理解させ，積極的参加を促す。

展開 1 15 分	**2．リコーダー演奏へ向けてのウォームアップ〈3 分〉** ・チューニング ・ロングトーン気味で音階（運指確認を兼ねて） ※ 運指確認で，板書の説明有り **3．個人単位で抜粋箇所の練習〈12 分〉** **練習前の伝達事項** ・運指が難しい曲の場合，先に音数を減らしてアレンジするのも OK。（→その際不明な点は教師へ相談） ・練習に入る直前に（前回自分でプリントに書いた）「曲の特徴」を意識しながら練習するよう伝える。	・「間違えやすい運指」「出しにくい音の息の入れ方」の確認 ・積極的なコミュニケーションを促す意味で，練習時多少の座席移動は認める。
展開 2 30 分	**4．グループ毎に「曲の特徴について」各自の考えを元に意見交換」をする。〈12 分〉** ※前回までに各自がプリントに記入した考えを元に，お互いが座席近くで向き合って自分の考えを口頭発表。 **5．グループでの「意見交換」について発表（2グループほど抜粋して発表）〈8 分〉** ※そのまま座席の場所で（必要に応じて前で発表） ・グループ討論で（仲間を通して）得たことを共有し，自分たちのアレンジに活かすことが目的。 **6．再び，個人単位で抜粋箇所の練習〈10 分〉** ・周囲の意見を参考にしつつアレンジさせる。 ・「曲の特徴を活かしたアレンジ」に限らず，「曲の特徴をあえて殺した形でのアレンジ」という方法もあることを伝える。	・単なるプリントの回し読みでなく，会話の中からお互いの考えに対する意見も（反対意見も含め），どんどん出し合わせる。 ・他者の意見を聴いて感じたこと等を積極的にメモさせる。 ・他の曲についての意見でも参考にできる場合があることを伝える。 **★創**①楽譜上に示された指示を理解しつつ，演奏曲における特徴的な音楽を形づくっている要素等も意識しながら，具体的なアレンジにかかわる観点をもち，どのようなアレンジにするかについて思いや意図をもっている。 （個別の活動の様子，グループ活動の様子，ワークシート）
まとめ 2 分	**7．次回へ向けて** ・（教員目線で）練習の様子から気づいたこと ・今後の予定など	・この題材では，今後あくまでも個人活動だけでなくグループ内で高め合っていくべきことを強調する。

4.6 板書計画



4.7 会場図（音楽室）


出入口
黒板
ピアノ
壇上
E
3名
C2
5名
D1
5名
D2
5名
F3
4名
F2
4名
F1
4名
C3
5名
C1
5名
同じ曲の仲間で前後向きを変えて，話合いができるように座る。